



町報 つきよの

国体だより

第1号

昭和57年

7 / 15

■ 発行所・月夜野町役場

■ 発行人・町長西山保之助

■ 編集企画課

■ 印刷・利根印刷所



スポーツで育つ若い芽、伸びるまち

熱戦を展開した親善交流大会(6月20日 ホッケー競技会場)

国体を成功させよう

来年にそなえて

8月20日
～23日

全日本男子実業団

ホッケー選手権大会を開催

いよいよあかぎ国体の開催も来年にせまりました。各都道府県を代表する選手が群馬県に集まり、わが国最大のスポーツの祭典が開かれます。

国体史上最高の四十競技が県内二十七市町村にわかれて行われる規模の大きな国体となります。

全国から集まる選手たちを温かく迎え、素晴らしい国体とするため、町でも着々と準備がすすめられています。

この国体のリハーサル大会として、来る八月二十日より四日間、全日本男子実業団ホッケー選手権大会が町のホッケー競技会場で開催されます。また国体は数十年に一回訪れるという国民的大事業であり、この成功は町民皆さん一人ひとりの理解と協力にかかっています。

健康な体力づくり、美しい環境づくり、豊かな人間関係の三本柱を町民運動の軸とし、スポーツを通じ町民の連帯を深める中でこのリハーサル大会を成功させようではありませんか。

国体の始まり

第一回大会は、戦後間もない昭和二十一年、京都市を中心に近畿地方で開かれました。

当時は、戦災でだれもが生活に困る有様で、気持ちも沈みがちでしたが、全国から食糧持参で集まった五千三百七十七人の選手たちは、力いっぱい熱戦を繰り広げました。その若いエネルギーは、沈滞ムードを吹きとばし、全国民に将来への明るい希望を抱かせました。その後、毎年、地方持ち回りで開かれるようになりました。

ふれあいの場として

親切な心で応対を!

国体は、全国からお客様を迎える「ふれあいの広場」のようなものです。このふれあいを楽しい思い出として持ち帰ってもらうために欠かせないのが心の親切運動です。

見知らぬ土地で受ける激励や親切などの心温まる人情ほど、遠来のお客様にとってうれしいことはありません。又これが何よりのお土産です。道ひとつ尋ねられても、わかりやすく、親切に。応対は「やさしく、親切、さわやかに」を心掛けるようにいたしましょう。

「さわやかな笑顔が夏の

利根の瀬に」

風に向かって走ろう

国体関係

写真コンクール

に応募を

あかぎ国体月夜野町実行委員会では次の要領により、あかぎ国体写真コンクールを実施いたします。あなたも写真で国体に参加してみませんか。

内容
あかぎ国体月夜野町会場に関することなら何でも結構です。また白黒、カラー、組写真は問いません。

大きさ

キャビネ以上。

応募資格

町内在住者及び勤務先を有する者、または出身者で、老若男女は問いません。

その他
このコンクールは、秋季文化祭の折に実施いたしますので、出品方法や賞の内容については、文化祭開催要項でお知らせします。

花と緑のあふれる町に

花で迎えるリハーサル大会

会場、沿道に花を飾って、ホッケー競技会場を訪れる遠来のお客様を心温かく迎えようと、町内の小中学校や婦人会、若妻会、又菊花同好会の人達の協力を得て、いまその準備が進められています。

町ではマリーゴールド、サルビアを重点に栽培し、これをプランターに移し、近く競技場、駅周辺をはじめ要所に配置し、きれいな町でリハーサル大会を迎えられるよう一般町民に呼びかけています。役場職員や関係者が一生懸命つくった花が、美しく維持できるように、プランター近くの方は是非花に水をやってください。花が水がれでしおれないよう皆さんのご協力を

お願いします。
このプランターは町内の次の場所に移され飾られます。
「ホッケー競技会場及び周辺、後閑駅、上取駅、練習会場、選手役員宿舎」

毎月15日は

清掃デー

全町一斉一時間清掃デーを設け、近辺の道路の紙くず、空き缶、空きビン等の清掃に努めましょう。町ではこの清掃デーを毎月の十五日に定めることになりました。燃えるごみは袋に、燃

一中生徒が 草むしりに協力

第一中学校生徒四百人がホッケー競技会場の草むしりを行ってくれました。時間は一時間程度でしたが、あつと言間に全体の三分の一程度の草がきれいになりました。国体の成功に向けて生徒一丸となって協力してくれました。



400人が協力してくれた草むしり

「町民運動行事にご協力を」

明るい町づくりを推進



婦人会・若妻会が協力して花づくり

接待案内所4か所に設置

「つきよのまち」を全国にPR

全国から参加する役員・選手関係者の総数は、約一千二百人になる見込みですが、山紫水明に恵まれた、情緒豊かな「つきよのまち」を全国から参加するみなさんに強く印象づけるため、町の「顔」として、町の紹介や、湯茶の接待を真心こめて行っていきたいと思っています。

接待案内所は、後閑駅前、上

地元チームが健闘

親善交流ホッケー大会

六月十九、二十日と日本ホッケー協会より来県指導があり、役員・係の出席を得て、十九日は総合体育館で、大会運営等についての一般講習を行い、翌二十日は実技講習がホッケー競技会場で開かれました。又、この二十日には、はるばる山梨県日根町を始め栃木県の今市市チーム等計八チームが参加し、ミニ国体に相応した大会の盛りあが

ルールを覚えて観戦しよう

ホッケー競技の見方

試合は二チームで行われ、各チーム十一人で、主として攻撃にあたる者五人（フォワード）、攻撃と守備を兼ねる者三人（ハーフバック）、主として守備にあたる者一人（フルバック）、ゴールキーパー一人で編成されますが、近年、ゴールキーパーを除き、攻撃、守備にあたる者の区別がなくなりつつあります。

試合時間は、前半、後半三十分間、前半と後半の間に五分間の休憩時間があります。休憩のあとの再開のときにサイドが入れ替わります。

試合はあらかじめトスによりボールがコートを選択しておき、センターフォワード（一名）が自陣側にパスを出して始まります。これをパスバックといいますが、得点は、シュートインゴールの競技者によって触られ、または打たれたボールがゴールラインを完全に横切ってゴールの中に入ったときに得点となります。ここでご注意願いたいことは、

▼オフサイド
相手方陣内でボールが打たれた瞬間に、相手方ゴールラインにより近く、相手方のプレーヤーが二名以上いない場合、

▼オフストラクション
相手とボールの間に走り込んで、スティック、体、手、足等で相手のプレーを妨害した場合、

▼バック・スティック
スティックの平面以外の部分でボールを扱った場合、

▼ハイ・スティック
ボールを打つ前後や空中にあるボールを止める際などに、スティックを肩より高く上げた場合、

◇ 競技の主な反則
シュートインゴール（通常サークルといいますが）の外側から打ったボールがゴールの中に入っても得点にならないということです。



よごすまい

まちもみんなと生きている